

「農業の魅力を柑橘栽培にのせて」



植田 文絵 (34 歳)
(今治市)

Uターン

1 就農の動機・理由

農家の家に育ち、小さいころから農業は身近な存在でした。高校卒業後は、県外で結婚生活を送り、3人目の出産を機に9年前に故郷へUターンしました。

Uターン後、時間を見つけては実家の農業を手伝っていましたが、農業をやりたいという思いが強くなり両親と同じ農業への道へ進むことを決め、2年間の農業研修を経て就農しました。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和5年)	現在の経営 (令和7年)	将来の経営 (令和12年)
労働力	女1人(本人)	女1人(本人)	女1人(本人)
経営耕地	樹園地 28a	樹園地 55a	樹園地 60a
経営内容	施設愛果 28号 3a	施設愛果 28号 15a	施設愛果 28号 20a
	早生温州 3a	早生温州 3a	早生温州 3a
	普通温州 17a	普通温州 17a	普通温州 17a
		甘平 5a はれひめ 15a	甘平 5a はれひめ 15a

○農業用施設

農業用倉庫 1棟
パイプハウス 3棟

○主要農業機械

動噴 2台
軽トラック 1台
運搬車 2台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県今治市波方町
職歴 事務職
就農研修歴

JA おちいまばり

(R3.9.1~R5.8.31)

就農年月 令和5年9月

(2) 就農時の思い

とにかく、農業が好きで就農しました。柑橘を栽培していますが、日々の作業や作物の成長を実感できることが農業へ取り組むことへのモチベーションになっています。

JAの指導員さんや研修中にお世話になった農家さんからの指導もあり特に不安を感じることなく就農できました。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

就農準備資金を活用し、JAで研修を受け、基本的な栽培技術を学びました。

2年間の研修期間では、全てのことを習得することはできなかったものの、今も疑問に思ったことや困ったことなどがあると、研修中にお世話になった農家の方に連絡し、解決しています。

(2) 資金の準備

研修中は、就農準備資金を、就農時には、経営開始資金と経営発展支援事業を活用しました。

これらの活用については、県今治支局地域農業育成室、今治市、JA おちいまばりへ相談し、営農計画の作成から補助事業の有効活用など多くの面で指導いただきました。

(3) 農地・住宅の確保

就農時は、親の経営を一部継承し新たに施設を導入し経営をスタートさせました。

その後、経営規模を縮小する農家から施設愛媛果試第 28 号（成園）を施設ごと借り受けることができ、これを経営の柱とすることができました。

住宅は、実家の隣に確保することができました。

(4) その他苦労したこと

研修中に学んだことが、自分の管理する園地ではうまくいかず、品質の良いものが思ったように生産できず悩むことが多くありました。

また、収穫の最盛期には、労働力が足りず苦労しました。今後は規模拡大も計画しているので、これを解決していくことが今後の課題です。

5 農業経営の特徴

柑橘の専作経営ですが、現在の労働力は 1 人なので、作業が集中しないように品種構成を工夫しています。

また、県や JA でブランド化している品種を中心に栽培し、高単価で販売できるよう取り組んでいます。

6 これからの夢

自分の園地にあった栽培方法を見つけ、

高品質で高糖度な「美味しい」と喜んでもらえる柑橘を生産していきたいです。

7 成功したキーポイント

何にでも興味をもち、積極的に自らわからないことを聞いたり、相談することで一つ一つ課題を解決したこと。

このために、研修会や交流会などへ参加し人脈を広げることが大切だと感じています。

8 就農を目指す方へのアドバイス

就農するまでは、自分から聞いたり相談することが苦手でしたが、皆さん親身になり教えてくださいました。わからないことはどんどん聞くべきです。

農作業は、人それぞれやり方があるので、教えてもらうことで新しい発見や新しい技術を身に付けることができます。

○ 指導機関からのひとこと

研修期間中から一貫して、先輩方や指導員とのつながりを大切にしながら、積極的に技術習得しようとする姿がとても印象的でした。その姿は、後に続く新規就農者にとっても大きな励みとなります。これからの活躍を、一同心より楽しみにしています。

執筆機関

東予地方局農林水産振興部今治支局地域農業育成室

電話番号 0898-23-2570



柑橘の収穫作業